

1 年

『ともだち、いっぱい』の実践

札幌市立白楊小学校 岩渕 修子

◆単元のポイント

○人とのかかわりを大切に

核家族化・少子化，地域社会の様相の変化により，人とのつながりが希薄になったといわれる現代，生活科でも身近な人とふれあう活動の充実が求められています。この単元は，児童を取り巻く多様な人とのかかわりを重視し，校区内にある『若草保育園』の園児や保母とふれあう活動を中心に構成しています。

○園児とのかかわり

5～7歳と比較的年齢の近い子供同士の活動は，互いに仲良く楽しく，伸び伸びと行動できます。この交流で繰り返しかかわるうちに，双方に，〔年齢が違って一緒に活動しようとする態度〕〔自分より年下の子供との接し方，思いやる気持ち〕〔自分より年上のお兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらおうとする姿勢〕が身に付いてきます。また，この交流によって，子供の地域での縦の友達関係にもつながったり，異年齢・地域集団での活動に発展する可能性も生まれてくると考えています。

○1年間を通したかかわり

単元構成では，活動のつながりや広がりを考え，他単元，他教科・他領域との合科的・関連的な指導を工夫しています。また，1年間を通して，園児と1年生の異年齢集団での交流を積み重ね，子供相互の啓発を図り，ふれあいを深めていくことをねらっています。



◆単元の目標

- 公園や学校の施設で遊んだことを生かし，園児と一緒に楽しく遊ぼうとする。
(関心・意欲・態度)
- 施設や草花，道具，身近材などを利用して，園児との遊び方を考え，工夫する。
(思考・表現)
- 四季を通して園児と交流することで，園児とのかかわり方や自分の成長に気付く。
(気付き)

◆単元の構想（12時間扱い）

ともだち、いっぱい

行事・学活 きっかけ②

運動会の招待状を届ける

- ・卒園した児童を中心に園内や園庭を見学し、先生や園児にインタビューをする
- ・運動会の集団表現を発表する
- ・園児とみんなのできる遊びを準備し、交流する

- ・小集団で活動する
- ・自分が若草公園で遊んだ時のことを生かして、園児との遊びを工夫し、一緒に楽しく遊ぶ

- ・水遊びの経験を生かして、園児との遊びを工夫し、一緒に遊ぶ（一斉、小集団）

複合・発展

『なかよしランドで遊ぼう』

- ・身近材を使って遊びのコーナーなどを工夫して作り、一緒に遊ぶ

行事・学活

運動会に招待しよう

- ・園児の発表を観覧し、自分たちの考えた出し物を発表する

複合

『雪と遊ぼう』

- ・雪で遊んだ経験を生かし、園児との遊びを工夫し、一緒に遊ぶ

6月

○若草保育園を訪問してみよう

保育園ってどんなところかな

7月

○若草保育園のお友達と遊ぼう①

若草公園で一緒に遊ぼう

8月

○若草保育園のお友達と遊ぼう②

学校のプールで一緒に遊ぼう

9月

○若草保育園のお友達と遊ぼう③

学校の体育館で一緒に遊ぼう

10月

○若草保育園を訪問しよう

生活発表会に招待された！

11月

○若草保育園のお友達と遊ぼう④

雪で一緒に遊ぼう

ともだちが、いっぱいできたよ！

きっかけ①

『公園で遊ぼう』
・公園巡りの時に見学

発展

『公園で遊ぼう』
・若草公園で遊ぼう

他教科等との
食料・関連的指導

体育『水遊び』
図工『水に浮かべて』
学活『みんなで遊ぼう』

図工『うごくおもちゃ』

学活『新1年生を歓迎
（就学時検診）しよう』

図工『雪と友だちに
なろう』

対象との“かかわり”
自分らしさの“発揮”
を大切にした学習

◆実践するにあたって

この単元は、卒園児が運動会の招待状を届けたことや「公園で遊ぼう」の公園巡りで保育園を見学させてもらったことをきっかけに交流へつなげていきます。また、小集団の構成や交流の形態の工夫を図り、保育園→公園→プール→体育館と場に変化をもたせ、園児とのふれあいが深まるようにしています。また、双方の子供にとって価値のある交流となるように、交流の前後に園の保母と計画や評価を綿密に打ち合わせています。実際の交流では、教師2名・保母2～6名の協力指導体制で行っています。